

『東大和市健幸都市宣言（素案）』に対するパブリックコメントの結果について

について、パブリックコメントを実施したところ、次のとおりの結果となりました。

1 提出された意見の数及び提出した市民等の数

4人 9件

2 意見の提出期間

令和元年12月4日（水）から令和2年1月6日（月）まで

3 提出された意見の要約及び意見に対する市の考え方

宣言を確定するうえでの検討事項とする意見 3件

健幸都市の実現に向けた取組の推進において参考とする意見 4件

宣言に反映させない意見 2件

別紙のとおり

別 紙 (4人 9件)

提出者	質問	意見の要約	市の考え方
1	1	宣言前文の「一人ひとりが協力して、限りある命」を「それぞれの命」または「相互の命」とすることを提案します。	ご提案のありました表現につきましては、素案を確定するうえでの検討事項にさせていただきます。
	2	素案の宣言文5番目の「喜びを感じながら」を「喜びを受けとめながら」とすることを提案します。	ご提案のありました表現につきましては、素案を確定するうえでの検討事項にさせていただきます。
2	3	宣言前文の「自然と文化に恵まれたまちです。」の「まち」を「町」か「街」にすることを提案します。	「まち」の表現につきましては、市民の皆様が持つ「まち」のイメージが多様であることから、素案のまとします。
	4	宣言文の前段に、「私は心身の健康を維持するために」を追加することを提案します。 (主旨) 自主的、意欲的、主体的に宣言するため。	健幸都市は、個人による健康づくりと社会的な支えが結びついて、はじめて実現します。 そのため、個人が自助努力をしやすい環境を整えるとともに、市だけではなく、市民、企業、団体などの関係者が協力して健康寿命の延伸に取り組んでいく健幸都市宣言とすることから素案のまとします。
	5	宣言文の前に「私は」、文末は「しましょう。」に統一することを提案します。	ご提案のありました表現につきましては、素案を確定するうえでの検討事項にさせていただきます。
3	6	以下の主旨から宣言文2番目の「おいしく食べて～」を「できるだけ地元の野菜やエコな食品をおいしく食べて、良好な身体と環境を保つこと」に変更することを提案します。 (主旨) <b>東大和市は狭山丘陵を有していて、自然に恵まれた市だ</b>	市では、平成31年3月に「健幸都市」の実現に向け「健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針（以下「取組方針」という。）」を策定しました。 この取組方針では、食事は、健康な身体を維持するための最も基本となるものであること、また、様々な

	<p>というのが私の誇りですが、健幸都市として更に希望るのは都市農業の豊かさです。</p> <p>私は健康を意識した料理教室を仲間と開催していますが、やはり健康に良い食と言えば野菜を多く取り入れることを考えます。</p> <p>食を研究している専門家によると無農薬無化学肥料の野菜の方がビタミン、ミネラルが豊富だそうです。</p> <p>病気にならないためにはビタミンとミネラルが必要です。</p> <p>そこで、私は東大和市に農業の促進に力を入れている市として有名になってほしいと思います。</p> <p>例えば、市が狭山丘陵の落葉で農業に必要な堆肥作りをして農業者や家庭菜園をやっている市民に販売提供していただくことを願います。</p> <p>家庭菜園を促進するために、市民が栽培した野菜を販売できるシステムを作っていただきたいです。</p> <p>自給率が最低の日本の中で東大和市にはオーガニック野菜の日本一の自給率を担ってほしいです。</p> <p>公民館講座で知りましたが市民の間では無農薬無化学肥料の野菜を作っている方が多いようです。その方々の野菜も生産量に入れれば自給率は上がりますし、栽培されている方々も励みになり、東大和の農業が促進されます。</p> <p>そうすると市民が買える無農薬の野菜が増えますし、市民の健康の意識が上がり、健康寿命が上がると思います。</p>	<p>関係機関が連携協力して効果的な施策に取り組んでいくこととしており、この取組方針を基に「東大和市健幸都市宣言」及び「健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針アクションプラン」を策定し、関連する事業を実施してまいります。いただいたご意見は、取組を進める中で参考にさせていただきます。</p>
--	---	---

4	<p>宣言は市民と市がするというイメージですが、素案の内容では、市民のみの宣言の印象があり、市が健康で幸福なまちづくりをするという意思が感じられない。</p> <p>次の内容を追加することを提案します。</p> <p>「市は、各研究機関と連携し宣言の進捗度合いを評価、検証、改善して進めていく」</p>	<p>健幸都市は、個人による健康づくりと社会的な支えが結びついて、はじめて実現します。</p> <p>そのため、個人が自助努力をしやすい環境を整えるとともに、市だけではなく、市民、企業、団体などの関係者が協力して健康寿命の延伸に取り組んでいく健幸都市宣言をすることとしております。</p> <p>市では、平成31年3月に「健幸都市」の実現に向け「健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針（以下「取組方針」という。）」を策定し、この取組方針に基づく健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針アクションプランにより進行管理を行ってまいります。いただいたご意見は、取組を進める中で参考にさせていただきます。</p>
8	<p>「健康格差」が社会問題として深刻化している現状があります。</p> <p>宣言前文の「限りある命を大切にし」の後に「健康格差を是正し」を追記することを提案します。（以下の主旨を参照） （主旨）</p> <p>健幸都市実現に向けた具体的プランについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年9月19日のNHKスペシャル「私たちのこれから#健康格差 あなたに忍び寄る危機」において、職業、経済力、家族構成、住む地域によって、病気のリスクや寿命に格差が生じる「健康格差」の問題が深刻化している。この</li> </ul>	<p>健幸都市は、個人による健康づくりと社会的な支えが結びついて、はじめて実現します。</p> <p>そのため、個人が自助努力をしやすい環境を整えるとともに、市だけではなく、市民、企業、団体などの関係者が協力して健康寿命の延伸に取り組んでいく考え方を「健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針（平成31年3月29日作成）」において、示しております。健康づくりにつながる環境づくりを「健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命</p>

	<p>ままでは、社会の活力が失われ、医療費や介護費のさらなる増加につながる恐れがある。健康寿命の地域格差の縮小を国も目標に掲げたと放送されました。</p> <p>東大や千葉大などが事務局である「日本老年学的評価研究（JAGES）」によれば、全国40以上の市町村、30万人の高齢者の調査（JAGES調査フィールド）の結果、健康格差が見えてきた。たとえば、9市町村を調査したところ、4倍転びやすいまちがあった。ふれあいなごやかサロンなどの「通いの場」に参加している人はそうでない人と比べ、5年間の内に要介護認定を受ける可能性が5割低く、7年間の内に認知症になる可能性が3割低いことがわかった。また、JAGESは、調査フィールドにおいて、市町村の問題点を見える化して、市町村が実施する具体策の支援を実施し、介護認定率が半減した地方自治体もあるとのことです。</p> <p>東大和市もJAGES調査フィールドに参加し、健康格差などの問題点を明確にして具体的な取り組みを実施することを希望いたします。</p>	<p>延伸取組方針アクションプラン」を策定し、取り組むことは、健康格差の縮小につながっていくものと考えております。</p> <p>JAGES調査フィールドに参加等につきましては、今後調査研究してまいります。</p>
9	<p>「医療統合」の考え方は、幸福に通じると思います。 「生活の質（QOL）」を向上させ、尊厳が保障される社会を築いていきます。」を追記することを提案します。（以下の主旨を参照） (主旨) ・最近では、統合医療を取り入れて健康づくりを進める地方自治体も出てきています。</p>	<p>健康寿命を伸ばすには、自立した生活を妨げる要因となる生活習慣病などの病気にならないことや地域活動やボランティア活動などの社会活動に参加し、社会的に孤立しないことが大切なため、「生活習慣を改善すること」、「病気を予防すること」及び「社会環境を整備すること」に重点を置く考えを「健</p>

	<p>たとえば、鳥取県南部町では、長期計画の「なんぶ創生総合戦略」の「地域の活力創出」のなかに、【統合医療の推進】心身のバランスや免疫力の向上を目指す統合医療を西伯病院と連携して実施。と明記されています。</p> <p>日本統合医療学会による統合医療の説明では、</p> <p>「統合医療には、狭義の統合医療である『医療モデル』と広義の統合医療である『社会モデル』がある。</p> <p>『医療モデル』は、主として病院や診療所での、患者を中心とした疾病の治療が目的である。患者を中心とした、医療従事者の多職種連携による集学的チーム体制で多様な患者の疾病に対応しようとする狭義の統合医療である</p> <p>『社会モデル』は、主として日常の生活の場での、生活者を中心とした疾病予防や健康増進が目的である。地域住民を中心とした、地域コミュニティの多世代連携による多様な地域住民の生活の質（QOL）の向上を目指す広義の統合医療である。</p> <p>『医療モデル』と『社会モデル』は、互いに補完し合いながら、有機的な繋がりの中で機能し、患者でもあり生活者でもある地域住民の疾病への対応、生活の質（QOL）の向上、尊厳の保障、健康格差の是正、地域経済の活性化、地域コミュニティの創出に寄与することが期待されている。」となっている。</p> <p>この統合医療のありかたは、健幸都市宣言と重なる部分が相当多いと思われます。</p> <p>多様な健康法に市民が触れることができる環境を整えて</p>	<p>幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針（平成31年3月29日作成）において、示しております。健康づくりにつながる多様な取組を「健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針アクションプラン」を策定し、進めていくことは、生活の質の向上につながっていくものと考えております。いただいたご意見につきましては参考とさせていただきます。</p>
--	---	---

	<p>いくことも重要と考えます。</p> <p>統合医療を取り入れて実施していくことを希望いたします。</p> <p>・高齢者が実施している運動は、散歩や体操が多いのではと思います。体操はゆうゆう体操事業があります。東大和市は緑に恵まれていますので歩きたくなるまちづくりを進めていただきたいです。市役所通りや向原中央広場のような草花が多い歩道や広場の整備を希望します。</p>	
--	--	--